

平成29年度中学校新教育課程説明会 技術・家庭科（家庭分野）

I. 技術・家庭科改訂の基本的な考え方

1 成果と課題を踏まえた技術・家庭科家庭分野の改訂の趣旨

(1) 成果

- ・ 普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高い。

(2) 課題

- ・ 家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家庭の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分でない。
- ・ 家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。

(3) 目標とする資質・能力

- ・ 実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見だして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。

【解説p 5～ 6】

2 技術・家庭科家庭分野の具体的な改善事項

(1) 指導内容の示し方の改善

- ・ 小・中・高等学校の内容の系統性の明確化
- ・ 空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化
- ・ 学習過程を踏まえた改善

(2) 教育内容の見直し

- ・ 「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの内容で構成する。
- ・ 家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働することや、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動を充実する。
- ・ 金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。
- ・ 主として衣食住の生活において、日本の生活文化を継承する学習活動を充実する。
- ・ 学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容を充実する。

【解説 p 6～ 8】

II 改訂の要点

1 目標の改善

教科目標及び分野目標については、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能等」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示す。

質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることを示す。

【解説p 8】

生活の営みに係る見方・考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

【解説 p 10】

2 内容の改善

(技術・家庭科)

指導事項のまとめりごとに、育成する資質・能力を三つの柱に沿って示すことが基本となるが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、指導事項のまとめりごとに内容で示すのではなく、教科の目標及び各分野目標においてまとめて示す。

【解説 p 10】

Ⅲ 技術・家庭科（家庭分野）の目標及び内容

1 技術・家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【解説 p 16】

2 家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【解説 p 60】

3 家庭分野の内容構成

【内容構成の考え方】

- ①小・中・高等学校の内容の系統性の明確化
小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの枠組みに整理している。
 - ②空間軸と時間軸の視点からの小・中・高等学校における学習対象の明確化
空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉え、学校段階を踏まえて指導内容を整理している。
 - ③学習過程を踏まえた育成する資質・能力の明確化
生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて「知識及び技能」の習得に係る内容や、それらを活用して「思考力・判断力・表現力等」の育成に係る内容について整理している。
- 今後の社会を担う子どもたちに、グローバル化、少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力を育成できるよう指導内容を充実・改善している。

【内容の示し方】

- ①小・中学校の各内容の系統性の明確化
- ②空間軸と時間軸の視点からの学習対象の明確化
- ③各内容の各項目で育成する資質・能力の明確化
ア「知識及び技能」の習得に係る事項
イ「思考力・判断力・表現力等」の習得に係る事項

- ④「生活の課題と実践」の一層の充実
- ⑤家族・家庭の機能と「生活の営みに係る見方・考え方」との関連を図った内容の見直し
- ⑥社会の変化に対応した各内容の見直し

【解説 p 65～66】

4 家庭分野の各内容のねらい及び改訂の要点

A 家族・家庭生活

【ねらい】

課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

小・中・高等学校の内容の系統性を図り、少子高齢社会の進展に対応

- ・ 幼児と触れ合う活動などを一層充実する
- ・ 高齢者など地域の人々と協働することについての内容を新設
- ・ 第1学年の最初に履修させるA(1)において家族・家庭の基本的な機能を扱う

【解説 p 67～68】

B 衣食住の生活

【ねらい】

課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、それらの課題を解決する力を養い、衣食住の生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

小・中・高等学校の内容の系統性、及び学習対象の明確化

- ・ 生活の自立を図るために必要な衣食住に係る知識及び技能を確実に身に付けることができるようにする。
- ・ 食生活、衣生活、住生活を総合的に捉え、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、健康・快適・安全で豊かな生活を営んだり、生活文化を継承したりする視点から、衣食住の生活に係る課題を解決する力を養い、実践できるようにする。

【解説 p 79】

食生活

【ねらい】

課題をもって、健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的な特質、食品の種類と概量、献立作成、食品の選択と調理などに関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、食生活の課題を解決する力を養い、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

・ 内容を小・中学校ともに食事の役割、栄養・献立、調理の三つにし、義務教育段階における基礎的・基本的な知識及び技能の習得が出来るようにした。

★小学校の「ゆでる、炒める」に加え、「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱う。

- ・ 日本の食文化への理解を深めるために、地域の食材を用いた調理として和食を扱う。

【解説 p 81】

衣生活

【ねらい】

課題をもって、健康・快適・安全で豊かな衣生活に向けて考え、工夫する活動を通して、衣服の適切な選択や着用、衣服の計画的な活用、日常着の手入れ、製作に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣生活の課題を解決する力を養い、衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

- ・ 小・中学校ともに「生活を豊かにするための布を用いた製作」を扱い、製作における基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに生活を豊かにしようとする態度を育成する。
- ・ 資源や環境に配慮する視点から、衣服等の再利用の方法についても触れる。
- ・ 衣服の選択や購入、手入れを取り上げ、購入から廃棄までを見通し、資源や環境に配慮することの大切さに気付かせる。

- ・ 衣服の機能については、社会生活を営む上での機能を中心に扱い、日本の伝統的な衣服である和服について触れる。 【解説 p 93】

住生活

【ねらい】

課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

- ・ 幼児や高齢者の家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方を重点的に扱い、安全な住まい方の学習の充実を図る。
- ・ 小学校と中学校の内容を整理し、「住居の基本的な機能」の一部や「室内の空気調節」については、小学校でも扱うこととし、「音と生活とのかかわり」については、小学校で扱う。
- ・ 日本の生活文化への理解を深めるために、日本の伝統的な住様式等を扱う。 【解説 p 100】

C 消費生活・環境

【ねらい】

課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

【改訂の要点】

- ・ 金銭の管理に関する内容を新設している。
 - ・ 「売買契約の仕組み」と関連させ消費者被害について取り扱う。
 - ・ 消費生活と環境を一層関連させて学習できるようにする。
- 消費者教育の推進に関する法律の定義に基づく消費者市民社会の担い手として、自覚をもって環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎を培う。 【解説 p 106】

IV 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- (2) 3年間を見通した全体的な指導計画
- (3) 各分野の各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年
- (4) 題材の設定
- (5) 障害のある生徒への指導
- (6) 道徳科などとの関連

【解説 p 117～124】

2 内容の取扱い

(1) 実習の指導

実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

- ・ 幼児や高齢者と関わるなど校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意する。
- ・ 調理実習については、食物アレルギーにも配慮するものとする。

【解説 p 130】

V 移行措置について

技術・家庭については、全部又は一部について新中学校学習指導要領によることができる。

○ 学習指導上の留意点

- ・ 中学校特例告示により追加又は省略することとした内容（学年間で移行した内容を含む）について十分留意した指導計画を作成すること。特に、移行期間中に追加して指導すべきとされている新中学校学習指導要領の内容については、新中学校学習指導要領の規定により、適切な指導が行われるようにすること。

- ・ 実際に新中学校学習指導要領による場合には、その内容に応じて適切な教材を用いること。
 - ・ 特に平成 32 年度の指導に当たっては翌年度を見通した適切な指導計画を作成して指導し、平成 33 年度の指導に当たっては、前年度における指導内容を踏まえて適切な指導計画を作成して指導する必要があることに十分留意し、新中学校学習指導要領に円滑に移行できるようにすること。
- 移行期間中における学習評価の取扱い
- 移行期間中の学習評価の在り方については、移行期間に追加して指導する部分を含め、現行中学校学習指導要領の下の評価規準等に基づき、学習評価を行うこと。

資料 1

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成すべき資質・能力の整理（案）			
	知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に關わるもの (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
家庭 高等学校 (共通教科)	<p>自立した生活者に必要な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する知識・技能 ・生涯の生活設計に関する知識 ・各ライフステージに対応した衣食住に関する知識・技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立に関する知識・技能 	<p>生活の課題を解決するために、生涯を見通して生活を創造する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連づけ、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力 	<p>共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度
技術・家庭 中学校	<p>生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の基本的な機能に関する理解 ・家族、幼児、高齢者に関する知識・技能 ・生活の自立に必要な衣食住に関する知識・技能 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる知識・技能 	<p>生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するために、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力 ・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力 	<p>家族や地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度 ・地域の人々と関わり、協働しようとする態度 ・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度 ・日本の生活文化を継承しようとする態度
家庭 小学校	<p>日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活に関する理解 ・生活の自立の基礎として必要な衣食住に関する知識・技能 ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・技能 	<p>生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するために、生活をよりよくしようと工夫する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりする力 ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力 	<p>家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を大切にすることの心情 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度 ・生活を楽しもうとする態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

資料 2

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における見方や考え方（案）

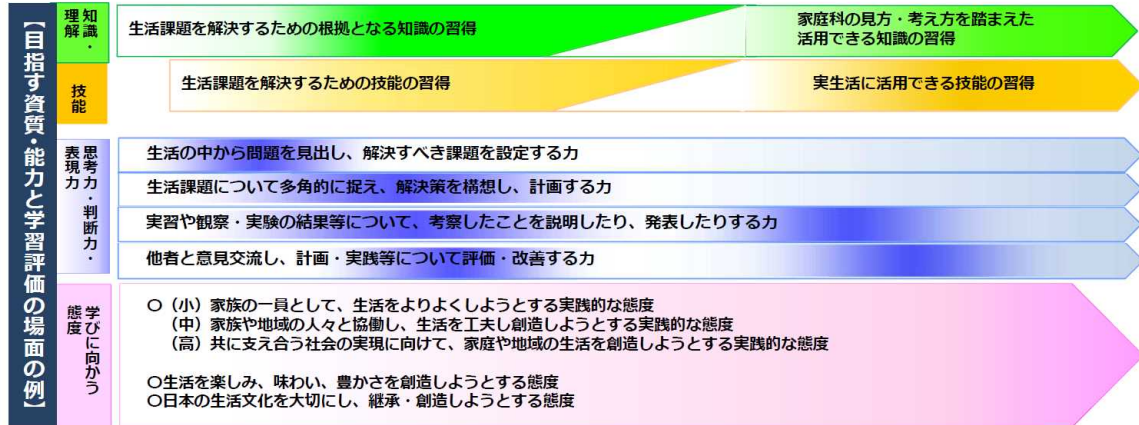
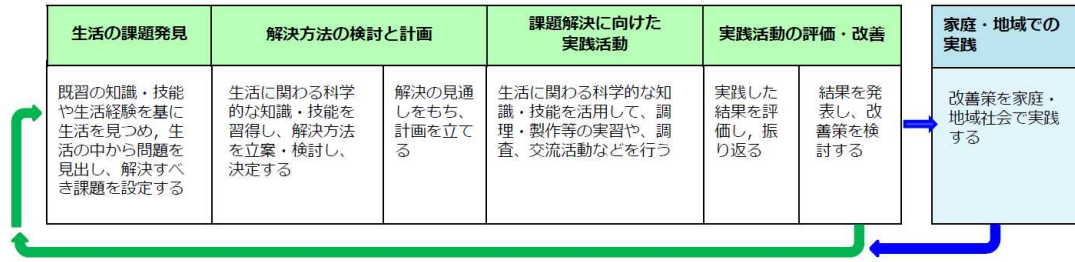
○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。



※主として捉える見方や考え方については、大きい丸で示している。
取上げる内容や題材構成等により、どのような見方や考え方を重視するかは異なる。

家庭科、技術・家庭(家庭分野)の学習過程(案)

平成28年5月11日教育課程部会
家庭、技術・家庭ワーキンググループ
資料10-1



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における教育のイメージ(案)

平成28年5月11日教育課程部会
家庭、技術・家庭ワーキンググループ
資料9-1



